



キスツケタイ。。。。

## その話の肝。

---

ある日、串揚げ屋さんのカウンターでランチ。

お隣さんは、昼間から日本酒などをさしつさされつでご機嫌のサラリーマン2人組。話の感じからして、それなりの企業にお勤めのご様子。そして恐らく片方は東京方面のお方。

ちらりと盗み見ると、昼間から串揚げコース(ちまちま出てくるヤツ)など注文しておられてそれなりの宴を催されているご様子。もしかしたらどちらかがどちらを接待という状況なのかも。

しきりに片方が串揚げコースの最後の串の具は何なのかを気にしておられ、片方は片方で電車の時刻がやや気になっている。まあ宴も終盤、酔いもまわってきて程よく会話も弾みます。

そんなときに東京カラーがおっしゃった。

「この前なんですけどね、Aさんの送別会の二次会でBさんが銀座のクラブに連れて行ってくれたんですよ」

「ほおそれはまた」

地元カラーさんはきっと(心の中でわたしは)都会のイケてるサラリーマンにはまだバブルが存在しているのか、それともこれこそ何たらミクスの恩恵なのかと、その未知のレベルに一瞬ひれ伏したと思われる絶句。あるところにはあるんですね、イヒヒ。

「もうBさんが10人以上連れてのどんちゃん騒ぎ。もうほんとすごかったんですよ」

東京カラーは少し鼻高々。当事者でない輩のほうが、なぜか自慢げなのはよくある光景。

「それでね・・・いざお会計って時に、いくらだったと思います？」

そんな焦らしはいいから！

「それがねえ、150万円」

一呼吸。ええ、はいはい的な自慢の間。

「もう、びっくりしちゃって、ふふふ。ははは」

ひー！銀座のクラブって何？どんちゃん騒いだけでそんなお金持ってくるの～？すごすぎるっ。大御所俳優の豪遊かっ(って知らないけど)。

「えっ、すごいですねえ。それはまた」

「もうすごいでしょ」

うひひひ、ふふふ、笑い合うツーカラーズ。

・・・え？話終わり？

で、誰が払ったの～？てか払えたわけ？え、カードで150万円？まさか割り勘じゃないでしょうねえ。「えー、1人15万円ずつねー。主役はいいからね」ってそりゃないよ。「え？じゃあ、課長以上は20万ってことで」って階級で差つけてる場合か？割り勘カード払って銀座で通用す

るの？課長たって、払えないよお。子供まだまだ金かかんだよお。

満足そうに銀座豪遊の話をしたサラリーマンは、赤い顔引っさげて串揚げ屋を去っていくのであった。

・・・この人は割り勘って言われたら払える階級の方なのかなあ。

今回の話のピークは「こんな銀座豪遊の場に居合わせたんだよ、俺って」だったご様子。気になる、その飲み代払えたのか猛烈に気になる。追いかけて聞きたいぐらい。ツケってきくのかな、まさかりボ払い？

銀座の恐ろしさだけがワタシの胸に刻まれたのであった。合掌。

## そのヒエラルキーの肝。

---

ある日、朝から車を運転していたら何やらプラカードを掲げているご婦人が歩道に立っておられた。

見れば「会場の～小学校はこちらです」的な矢印。

小寒い日、ご婦人はプラカードに巻き付くようにして健気にその職務をこなしていらっしゃる。

何の行事かはいざ知らずではありましたが、果て？この立っておられる方はPTAのメンバーにおいて、何かの役割を仰せつかったのであろうか？

子供を持ったことのないわたしが知る由もないけれど、こういう団体ってそれこそ年齢もそれぞれ、性格も育ってきた環境も、「子供が同級生」というだけで集団化する群衆。

ん～、想像できない。

それこそ、友人の中には「ちょっと年齢上になってから産むと、まわりが若過ぎて浮いちゃう」と入学式の洋服がババくさく、そして若作りくさくならないよう細心の注意を払うと言うし、「生活レベルが違いすぎると話合わせるのに苦労する」や「ママ友仲間が昼顔願望妻(要するに浮気したいってことです)ばかりで引いた～。そっと抜け出した」などなど伺うとやはりいろいろ大変なご様子。

会社に入社した際には、「これまでまわりにいた人たちは社会のほんの一部の人たちだったんだ！何だこの社会ジョーシキのるつぼは！」とショックを受けたものですが、それよりもきも一ち面倒な女の世界。いや、今はオトコの人も積極的なのだろうか。ともかく共通項が「子供の年」そして公立ならば「住んでいる地域」。でも女性はもしかしたら地元には慣れ親しんでいない、「結婚からこの土地参加型」女子の場合はなおさらそのネットワークといえますか、テンションといえますか、カラーの違いに戸惑っているはず。

ワタシもことさら遠いわけでもない土地から移り住んできた派ですが、言葉によっては違うニュアンスに聞こえたりしてちょっと戸惑ったときもありました。はい。

なんてことを思いつつ、そのご婦人に思いを馳せる。

もしかしたら「はいはい、そういうの皆面倒でしょ？ワタシがやるわよ。外で立ってるわよ」的なワタシが犠牲になればいいんでしょの陶醉タイプ、いやいやそうでなくても「はい、やりますよ。わたしはどうせ他に出来ることもないし。しくしく」の自己否定型タイプ。これならばまだ、外プラカードもおのれの意思含むってことで、よかろうとなるものの。

たとえば、どこから来たんだか全く不明だけど、何やら知らないうちに皆のリーダー役買って出ちゃってる輩がいたとする。いやまあリーダーって面倒だからやらせとけばいいんだけどさー、どうも恰好付けの面倒嫌いで自己犠牲が不完全なものだから、シラ～と自分にいいように物事を誘導してしまう。

その誘導も言葉巧み、技術最高峰ならばいいものを、なぜかボロを出しやがる。

「何かさー、あの人自分のいいようにしてるだけじゃない？」

と陰口たたかれる段階になったのならば、こりゃどうにかせねばなるまい。いや、そんなことより、どうにかできるのならこんなコトになりませんって。

リーダーを誇示するタイプだところりゃ厄介。あいまって上にはウケがいいから、頭すげかえるのも一苦勞。

ということで、ワタシの妄想ワールド暴走中。

「あ、弱気さん(仮名)。あなたは車の誘導係ね。はい、これプラカード。ぜったい風に飛ばされな  
いでよ、こっちが文句言われるんだからね。あーあ、じっと立ってればいいんだから楽よね。あ  
たしなんて損だわ、ホント。じゃあよろしくね」

スタスタとスリッパの音(どこで?)が鳴り響く廊下、呆然と取り残される弱気さん。ああ、今日は  
寒くなるというから、もっとあったかい恰好してくれば良かった。タイツに腹巻きコンビニに売  
ってるかしら。

ああ、大変ね、大人の世界って。

なんて厄介なことがないと祈りつつ、そのご婦人に幸アレと願うのであった。合掌。

そのお祝いの肝。

---

とある日、ある通りの少々寂れたスナックに大きな花輪が掲げてある。

「祝・リニューアルオープン スナック愛(仮名)様」とある。

おお、小さなスナックのリニューアルオープンを祝うのにあの大きな花輪とは!ずいぶんと張り込んだね～、やるなあ愛さん(仮名)。

そうか、ずいぶんと太客(太っ腹な客:ドラマからの請け売り)持ってるものだわ。

きっと「ねーえ、旦那はん。今度うち、お店リニューアルするやんかあ。ぱあっと花輪でも出しておくんははれ」「おお、わかったぞ。愛。見とけよ、でっけーの出したるー」としなりよろめいたらオトコが気張ってくれたのか。

いや待てよ、もしかしたら愛さんを取り合うオトコ2人。わてのほう为爱のこと好きやでと争うのだけど、一歩抜きん出たのは改装費用を出したサブロウ。

「おうおう、また雨漏りしとるやんけー。これじゃおちおち飲んどられへん。わてが出したるさかいな、ばちーと壁紙でも花柄に張り替えてええ店にしたらどや」

「え～ありがとう」

そしたらタケシも黙ってない。

「おうおう、そりゃこっちのセリフじゃー、んなら俺はばちーと気張ったソファこうたる」としゃしゃり出る。

結局、「ちくしょー、サブロウのやろう。ちょっと業者に顔きくからって値切ってあんな派手な工事しやがって」とぎりぎり歯ぎしりしたところに、しなり愛からのお願い。「なんか玄関さみしーわあ」「おうとも、そしたら友達の花屋にばちーとした花輪用意させたるわ」と扇子をヒラヒラ。がはははと高笑い。

愛さん、うまく自分にご執心のオトコを使ってお店を華やかに仕上げたのであった。ちゃんちゃん。

なんてアホなこと想像してみたけど・・・花輪って2万円もあれば出せるのね～知らなかった。自分が出すことになる日は来ないとは思うけど、田舎街にさんさんと輝く花輪が妙な想像をかき立てることに不思議な満足感を得た瞬間なのでした。合掌。

その模倣の肝。

---

久しぶりに復活した音楽番組をぼおっと見ていた。

一般的にテレビの質の低下や低予算化を嘆くといった声があるのだけれど、自分はそんなことには詳しくもないし、業界人でもない、ただひたすらテレビが好きな一般視聴者なのでそんなことは語れないけれど、すごく懐かしい人が次々と出てくるし、CDのセールスが桁違いだった時代の歌は自分の青春ど真ん中なので聴いていて楽しかった。

まあコレって、おとうさん方が「いや～昭和歌謡はいい!」とか言ってニッポンの歌バンザイと言うのと何が違うのかと言われても全く返す言葉もないし、本質的にはそういうことなのかもしれない。

まあ我が青春が何だったのかとか言うことは置いといて、その音楽番組で一番良かったなと思ったのは生歌だったことだった。

オンチならば口パクのほうがマシなのかもしれないし、今の口パク騒動に一石を投じるような力も知識もないのでそんな気はサラサラないけれど、やっぱり生歌っていいなと思う。

いっぽうで完璧に造り上げた世界観というものにことさらひれ伏す傾向にあるので、否定したいわけでは断じてない。

ただ、テレビあるいはライブにてパフォーマンスするのであれば、やっぱり観る側としては生歌を聴きたい・・・とわたしは思う。造り上げた世界は完成品を見るからいい。これはCDやDVDで鑑賞したい。PVとか最高。ぜひこってこてに造り上げて欲しい。

というわけで、やっぱりライブ会場に行ってノリノリになって、「来たぜ～名古屋～」みたいなのは生歌があるから成立すると思う。その時に風邪ひいてちょっと声が出づらかったり、途中で乱れたり、ちょっと間違えたりは生の醍醐味で、それ込みでハラハラしたい。ちょっと調子にのって踊り過ぎて息が上がるのなんてたまらん。昔の歌を年齢重ねたからこそほとぼる色気でうっとり、その時代には良かったけどその年齢ではキツいだろう楽曲でぞっとしたり、そんなものも生だからこそ。

結局のところ、口パクの弊害は「別にそこにいるのがその人じゃなくてもいい、そしてここにいるのが自分でなくてもいい」と思ってしまうことにあると思う。

それを阻止するためにカリスマ的なコスチュームや卓越したパフォーマンスがカギになってくるのだろうけれど、何曲もはいいかなと思ってしまうのです。あくまでも個人的には。

見た目が恰好よければ(美しければ)、生のお姿拝見するだけでテンション上がるし有り難い極みではありますが、それもどんどん薄れてきますしね。

なんて、生歌推奨しておきながら、もちろん音が外れてたらチャンネル変えちゃうし、「ヘタだな～」「声でてないな～」「衰えたわ～」とやいのやいの言いながらになるけれど、これは言いたい。言いたいんです。

それにしても、歌がうまいって本当に素晴らしい。アレはずるいね～。圧倒的なパワーがあるね。おのれのカラオケの下手さががっかりして、好きな歌が全く別物に聞こえてしまう者からすると尊敬しちゃうその才能。羨ましいな～。一度でいいから、「愛してるううう、あああ～Uh～」なんて(どんな歌?)伸び伸びと武道館でスポットライト浴びながら歌い上げたいもんだけど・・・この先そんなことには縁がなさそう。

あ、もしかして美しい見た目に踊りも最高、着ている服は毎回話題になる流行発信アイコンだったら少々歌唱に難があってもイケるのか?・・・ってそれも全くないんだった。残念ー!・・・合掌。

## そのエッセイの肝。

---

日々いろんなことがある。

いや、いろんなことと言っても、別段特筆すべきこともない退屈で平凡な毎日なので、

「今日はお台場でシャンパン飲みました」

「今日はグッチの新作発表会に来ています」

「今日は友人宅にてホームパーティーなので朝からローストビーフ仕込んでます」

などというトピックスは全くないのだけれど(どこの誰?)、ぼおっと車を走らせている時、ぼおっと会社でパソコンいじってる時、ぼおっとテレビを観ているとき、思わず心の中で(時には声を出して)突っ込みたくなるような場面って結構転がっているものです。

え?ぼおっとし過ぎ?まあまあそれは置いといて。

そんなことを発表するとは大した度胸だぜ、お前は!というお声もあるとは思いますが、たまに繰り広げる妄想も、勝手に暴走する空想も、書き留めれば何かしら意味のある諸行に思えてくるのでそうすることにしました。

ふとした空き時間に、ちょっと垣間みるぐらいの気持ちでゆるりとお楽しみ頂けると幸いです。